

石川県七尾美術館だより

平成31年4月1日発行
編集・発行 (公財)七尾美術財団

第97号(春号)



2019年度春季特別展

長谷川等伯展

～屏風・襖 - 大画面作品を中心に～

国指定重要文化財

「列仙図屏風」(部分)

長谷川等伯筆 桃山時代(16世紀)

京都市・壬生寺蔵

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



展覧会紹介

2019年4月27日(土)～6月23日(日)
休館日については裏表紙をご覧ください

2019年度春季特別展

「長谷川等伯展」

「屏風・襖・大画面作品を中心に」

4月27日(土)～5月26日(日)

〔会期中無休〕

◆第1・第2・第3展示室

七尾出身で桃山時代に大活躍した絵師・長谷川等伯(1539～1610)。「松林図屏風」(東京国立博物館蔵)や「祥雲寺障壁画」(京都市・智積院蔵)など幾多の名作を生み出し、日本を代表する画家のひとりとして知られています。

またその生涯は、一地方から京都に乗り込み、画壇の覇者「狩野派」とわたりあい、艱難辛苦の末に一代で長谷川の名を天下に轟かせる、豊臣秀吉もかくやのサクセスストーリー。しかしその一方で、最愛の息子を早くに失うなど数々の不幸にも見舞われるという、波乱万丈の人生でした。

等伯の作品が幾星霜を経た現代でも多くの人のびとに感動を与えてくれるのは、作品自体の優れた出来もさることながら、彼の「生きざま」がオーバラップされるからかもしれません。



石川県指定文化財
「涅槃図」 長谷川信春(等伯)
羽咋市・妙成寺蔵



重要文化財「牧馬図屏風」(右隻) 長谷川信春(等伯)
東京国立博物館蔵 Image:TNM Image Archives



三重県指定文化財「山水図屏風」(左隻) 長谷川等伯
伊勢市・等観寺蔵

今回のキーワードは「大画面」

さて、当館の主要展覧会として開催してきた「長谷川等伯展」のシリーズも今年で24回目。今回は屏風や襖といった「大画面作品」に焦点をあてます。襖や屏風は、建物などで部屋を仕切るために使用される家具・調度。大きな平面を持つこれらは大画面作品の媒体としてうってつけでした。従って古来より様々な絵画が描かれ、あるときは絢爛豪華に、またあるときは静寂閑雅に室内を彩ってきました。巨大な城郭や屋敷の建築が相次いだ安土桃山時代にも膨大な数の屏風や襖が整えられ、「狩野派」を筆頭に多くの絵師たちがのおの存分に腕を振るっています。

むろん等伯もそのひとりで、幅広いジャンル・技法で数多くの大画面作品を制作しています。そこで本展では、等伯が制作した様々な屏風や襖といった大画面作品を、晩年期の水墨画を中心に展

示。また若年期「信春時代」の仏画や「長谷川派」一門の作品などもあわせ、重要文化財3点を含む名作の数々あわせて21点を紹介します。なお、今回の展示は次の3テーマ構成となります。ここからは、各テーマの内容をみていきましょう(文中記載の作品は本展出品作)。



重要文化財「列仙図屏風」(右隻) 長谷川等伯
京都市・壬生寺蔵



「竹林七賢図屏風」(右隻) 長谷川等伯 京都市・両足院蔵
※本図展示期間: 右隻 4/27～5/12、左隻 5/13～26

テーマ1 《信春・絵師降誕》

天文8年(1539)、能登畠山氏家臣の子として生を受けた等伯。長谷川家の養子となり、養父宗清や養祖父ともいわれる無分らの薫陶を受け絵師として成長。やがて「信春」の名で絵師・長谷川家の「三代目」として、画業の第一歩を踏み出します。能登・越中を主な舞台に制作活動を繰り広げ、30歳代に活躍の場を新天地に求めて京都へ移住。そして等伯を名のる50歳頃までの、いわば前半生を「信春時代」と読んでいます。

この頃の現存する大画面作品はそう多くありませんが、仏画では「涅槃図」(羽咋市・妙成寺蔵)、鑑賞画では「牧馬図屏風」(東京国立博物館蔵)が知られています。絵仏師であった等伯ですが鑑賞画も存在するということは、おそらく早い時期

より幅広く修行していたのでしょう。

本テーマでは、等伯の「源流」ともいえる「信春時代」に焦点をあてます。「牧馬図屏風」を中心に、若年期制作の仏画や彼の師と伝わる無分や宗清の作品も加えて紹介します。

テーマ2 《等伯（一）―寵児躍動》

等伯は京都移住後、10年以上の長い雌伏の時を経たのち「等伯」と改名。名刹・大徳寺で「山水図襖」（京都市・圓徳院蔵）などを制作し、京都画壇の表舞台に登場します。時に等伯51歳、遅咲きの本格的デビューでした。

この頃より知名度も上がり大口の制作依頼も増加したでしょう、大画面作品が徐々に増加していきます。現存作品をみると無論彩色画や金碧画もありますが、水墨画に力点を置いていた気配が窺えます。京都移住後より本格的に学習し、共鳴するところが大きかったのかもしれない。

等伯の水墨画は、50歳代と60歳代以降では画風が大きく異なります。そのうち50歳代では、中国の画家・牧谿などを手本とした湿潤な空気感の柔らかな表現の作品を専らとしています。

本テーマでは、等伯50歳代頃の制作とされる作品を「列仙図屏風」（京都市・壬生寺蔵）や「山水図屏風」（伊勢市・等観寺蔵）といった、水墨画の名品を中心に紹介します。



「陶淵明愛菊図屏風」
長谷川等伯 個人蔵



「高士騎驢図屏風」 長谷川等伯
京都市・高桐院蔵



「故事人物図屏風」（右隻） 長谷川等伯 熱海市・MOA美術館蔵



「竹籐図屏風」（右隻） 長谷川等二 大阪市立美術館蔵

テーマ3 《等伯（二）―老匠天舞》

慶長4年（1599）、61歳となった等伯は自らを「雪舟より五代」と称し、室町時代の画家・雪舟の後継者であることを宣言しました。そこには雪舟への敬慕もさることながら、多くの弟子たちを率いた「長谷川派」総帥として、一門の勢力拡大を図るために「雪舟ブランド」を利用するという戦略もあったのかもしれない。

このことに連動してでしょうか、等伯の画風が激しい筆使いによる硬質な表現へと変化します。一説には、雪舟に倣い中国明時代の画派「浙派」を学んだためともいわれますが、いずれにせよすでに老境に身をおく等伯にとって、新たな画風への転向は大きな決断を要したことでしょう。等伯の絵画にかける覚悟のほどが窺えます。

本テーマでは「高士騎驢図屏風」（京都市・高桐院蔵）や「竹林七賢図屏風」（京都市・両足院蔵）など、等伯60歳以降の制作とされる水墨画を中心に展示。また「長谷川派」絵師の一人とされる長谷川等二の「竹籐図屏風」（大阪市立美術館蔵）を加えて紹介します。

《関連事業》

① 特別講演会（聴講無料）

日時：4月29日（月・祝）

午後2時から（開場は午後1時30分より）

会場：当館アートホール

講師：河合正朝氏

（千葉市美術館館長、慶應義塾大学名誉教授）

演題：「等伯時代の大画面作品をめぐって」

※講演会・聴講の方全員に、等伯関連絵ハガキ1枚をプレゼントします。

② 等伯子どもなんでもクイズ（参加無料）

対象：小中学生

日時：「長谷川等伯展」会期中開館時間内随時

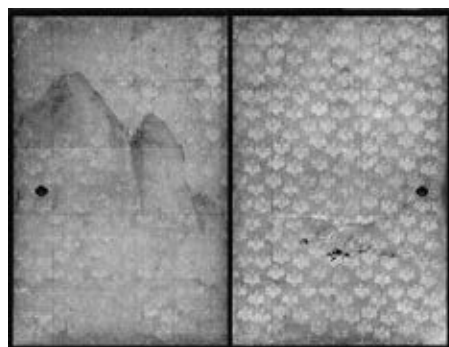
会場：当館展示室

※毎年恒例の子どもクイズ。全問正解された方の中から抽選で、等伯グッズをプレゼントします。

◇ 観覧料

	一般	個人	団体
大高生	800円	700円	300円
	350円		

※中学生以下無料・団体は20名以上です。



重要文化財「山水図襖」（部分）
長谷川等伯 京都市・圓徳院蔵

皆さまは、大画面のすみずみから発せられる、等伯や一門の絵師たちの熱き血潮や深遠な精神をきくと感じる事ができるでしょう。等伯が生まれてちょうど480年目の今年、それら入魂の名作をぜひとも生誕の地・七尾でご鑑賞ください。

「第75回現代美術展 七尾展」

5月31日(金)～6月23日(日)

◆第1・第2・第3展示室

昨年、能登に新たな人間国宝（重要無形文化財保持者）が誕生しました。9月に工芸技術の部「沈金」で認定を受けた漆芸家・山岸一男氏（輪島市）です。輪島で発達した「沈金」は、漆の塗面を彫り金箔や金粉などを埋め文様を表す加飾法です。山岸氏はこの「沈金」に独自の工夫を重ね、色漆などを埋める「沈金象嵌」の技法などを用的表現の可能性を広げられました。

「現代美術展」は、主に日本芸術院会員や人間国宝をはじめとする、石川県内在住の作家や美術愛好家たちが出品する公募展で、今回で75回目を迎えます。終戦2日後の昭和20年8月17日、石川県では早くも地元作家が中心となり、美術界の再起を図るべく、美術展の開催に向けて動き始めました。そして同年10月13日、石川県美術館の開館記念展を兼ねて「美術文化の向上による新日本建設への寄与」をスローガンに「現代美術展」はスタートしたのです。この第1回展で展示された宮本三郎の少女像に感動し画家を志したのが、昨年7月に亡くなられた日本芸術院会員の洋画家・村田省蔵氏です。翌21年に開校された金沢美術工芸専門学校（現金沢美術工芸大学）に入学し、学生時代に第4回展に初入選して以来、上京した後も、関東から現代美術展への出品を続けました。

現在では日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の6部門で構成され、その規模は公募展として県下最大を誇ります。また、所属会派を超えて出品されることから、石川県における美術の現在を知る絶好の機会となっています。



昨年の展示室の様子

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	3500円	3000円	
	5000円	4000円	

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

今年は3月29日(金)から4月15日(月)までの18日間にわたり、石川県立美術館(洋画・工芸・写真)の2会場で開催。展示作品は委嘱出品と一般公募から構成されており、委嘱出品の部では、出品委嘱作家(石川県美術文化協会会員)の作品が展示されます。一方、一般出品の部は、入選率5割という厳しい審査を経て選ばれた作品を展示するもので、展示の総点数は千点にもおよびます。当館では平成7年の開館以来、毎年6月に「現代美術展七尾展」を開催しており、今年で25回目を数えます。本展では「第75回現代美術展」出品作品から選抜した、約200点の作品を紹介します。日本を代表する大家から、身近な作家の作品までをお楽しみください。

会期中、第3展示室の1室では「池田コレクション」を展示します。観覧料は「現代美術展」と共通料金です。

貸館催し物案内

アートホール

北陸オペラ創立記念コンサート

4月7日(日) 開演 午後6時30分

地元の演奏家によって地元でオペラを楽しもうと立ち上がった「北陸オペラ」です。七尾・輪島・金沢の演奏家が「フィガロの結婚」「オルフェオとエウリディーチェ」の名シーンをお送りします。

《ソプラノ》 杉森裕香(七尾)

《ソプラノ》 サラ・ペレズ(七尾)

《メゾソプラノ》 仲谷響子(輪島)

《コーラス》 メディカルサロン七尾(七尾)

《コーラス》 ラ・ムジカ(金沢)

《指揮》 犀川裕紀(金沢)

入場料 3,000円

主催 北陸オペラ

連絡先 坪井薫 ☎080(8692)5639

ピアノ学習者と指導者のための音楽歴史紀行 第4回「シエパンス」

5月12日(日) 開演 第1部 午後1時30分

第2部 午後2時30分

第1部は親子で楽しむシエパンス名曲の旅。世界レベルの演奏を楽しいお話とともに。

第2部は名曲を「シエパンスらしく」弾くための演奏法・指導法セミナーです。大胆に、軽やかに、繊細に、色々な音色を出すためにピアニストはどのように手を使っているのか、名曲の聴きどころ&演奏ポイントを解説します。

講師 関本昌平

(第15回シエパンス国際ピアノコンクール第4位)

入場料 第1部 1,000円(親子1,500円)

第2部 3,000円

通し 3,500円

主催 能登ピアノレスナー会

助成 いしかわ県民文化振興基金

連絡先 石島 ☎090(2090) 1861

なかのと奏友会ユーフォラム・テューバ&金管
アンサンブルコンサートin2019春

無料入場

5月19日(日) 開演 午後2時

金管楽器・打楽器による3部構成・入場無料のアンサンブルコンサートです。ゲストに福井県の音楽団体をお迎えし、子どもから大人まで楽しんで頂ける様々なジャンルの曲を演奏致します。

主催 なかのと奏友会

連絡先 荒川 ☎090(3768) 5608

鵬学園高等学校吹奏楽部

第3回定期演奏会

無料入場

6月9日(日) 開演 午後2時

お陰様で今年も七尾美術館アートホールにて定期演奏会を開催させて頂く運びとなりました。皆様の心に残るよう精一杯演奏させていただきます。部員一同ご来場お待ちしております。

主催 鵬学園高等学校吹奏楽部

連絡先 浮田 ☎0767(53) 2184

エレクトーンフェスティバルミヤコ音楽堂大会
&ジュニアオリジナルコンサート2019

無料入場

6月23日(日) 開演 午後2時

8月に行われるエレクトーンフェスティバル北陸大会に出場する生徒を選考する大会と、生徒自身が作曲した曲を演奏するコンサートを同時に開催します。是非お越しください。

主催 ミヤコ音楽堂

連絡先 ☎0767(53) 0001

◆ミュージアムショップのお知らせ◆

ミュージアムショップコーナーでは、長谷川等伯作品のクリアファイルや、「松林図屏風」、「楓図」の一筆箋、絵はがき、色紙のほかに毎年開催している長谷川等伯展の図録などを販売しています。

その中で当館スタッフの一押しは「松林図屏風ミニチュア」です。ご自宅での鑑賞用として、またはプレゼントとしても大変人気があります。友の会会員の方には一部割引販売もしています。ご来館された折りには是非お立ち寄りください(価格はいずれも税込です)。



絵はがき各種 100円
一筆箋各種 300円
クリアファイル各種 350円~540円



松林図屏風ミニチュア 6,480円
松林図屏風扇子 3,240円

ティールームからのお知らせ

展覧会を楽しんだあとは、ティールームでゆっくりおくろぎください。

《長谷川等伯展限定メニュー》

【とうはくロール】

ドリンク付き(700円)

等伯の水墨画をイメージして創作されたオリジナルロールケーキ「とうはくロール」。風味たつぷり黒ごまクリームと奥能登産の黒豆を使用したきな粉クリームの2種類があり、ふんわりしたスポンジは竹炭パウダーが入ってやさしいおいしさです。



【お抹茶セット】(500円)

もちもちの白玉にきなこ・餡を添えました。

お抹茶は「御薄茶 等伯」を使用。



《期間4/27~5/26》

★友の会会員の皆様

会計時にレジにて会員証をご提示いただくと10%割引になります。(10円未満切捨)



2019年度 友の会 行事スケジュール

～みなさまのご参加をお待ちしております～

2019

4月

4月 1日 (月)

◆「美術館だより第97号 (春号)」発行

4月26日 (金)

◆「長谷川等伯展」

開幕前日の開会式・内見会 無料ご招待

7月

7月 1日 (月)

◆「美術館だより第98号 (夏号)」発行

8月

8月 3日 (土)

◆「大正ロマンとモダンデザイン」

開会式・鑑賞 無料ご招待

9月

9月未定

◆「美術講座」開催

第2回 日本画講座

10月

10月 1日 (火)

◆「美術館だより第99号 (秋号)」発行

11月

11月 1日 (金)

◆「2019イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

開会式・鑑賞 無料ご招待

11月未定

◆「第20回友の会鑑賞の旅」開催

京都国立近代美術館「円山応挙から近代京都画壇へ」展などを鑑賞予定

12月

12月13日 (金)

◆ 東京国立近代美術館工芸館移転連携事業

「人間国宝を中心に・陶磁器の美と技」

開会式・鑑賞 無料ご招待

2020

1月

1月 1日 (水)

◆「美術館だより第100号 (冬号)」発行



作品「雪中美人図」宮川長春
(池田コレクション)

※開催日程等は変更及び中止する場合がありますので、ご了承ください。

友の会美術講座実施報告

「日本画体験」干支を描く

昨年12月16日、金沢市在住の日本画家・土農力(しのうりき)氏を講師にお招きし、友の会日本画体験講座を開催、11名が参加されました。

まず、絵の具の接着剤代わりとなる膠(にかわ)を熱し、岩絵の具を溶く工程を見学。下描き後、等伯も使用した、貝殻から作る白い胡粉(ごふん)を塗りました。昼食後は、展示中の土農氏の作品を解説付きで鑑賞。皆さん感動されていました。鑑賞後は、順に色を塗り、金粉から作る金泥(きんでい)を入れると、より華やかに。「絵は苦手」と不安げだった方も、いざ描きだすと皆さん上手で、それぞれ味わいのある「猪」が完成しました。

参加者からは「次回もあれば受講したい」「土農先生に教わって、貴重な体験だった」などの感想があり、第2回も予定!きつとお正月は、この「猪」が皆さんの玄関やお部屋を飾ったことでしょうか。長時間ご指導いただきました土農氏、補助くださいました土農多寿美氏に、改めて御礼申し上げます。



電熱器で膠を溶かして説明する土農氏と、聴き入る参加者。



前列中央土農氏、前列左端奥様の多寿美氏。



【平成30年度新収蔵品紹介】(4月1日現在)

平成30年度の当館新収蔵品を紹介いたします。今回の新メンバーは、日本画3点と洋画が3点の計6点。これら貴重な作品をご寄附いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

①日本画「雪景山水図屏風」 佐々木泉景

天保8年(1837)制作

※堂谷内正氏より寄附。

②日本画「はな(木蓮)」 浜出青松

昭和40～50年代(1965～85)頃制作

③日本画「はな(紅蜀葵)」 浜出青松

昭和40～50年代(1965～85)頃制作

※②・③浜出三千帆氏・若葉氏より寄附。

④洋画「In New York City Soho」 戸潤幸夫

平成22年(2010)制作 第81回第一美術展

⑤洋画「バルセロナのヨットハーバー」 戸潤幸夫

平成27年(2015)制作 第86回第一美術展

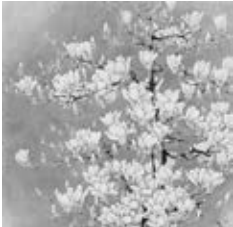
⑥洋画「トレド遠景」 戸潤幸夫

平成28年(2016)制作 第87回第一美術展

※④・⑥戸潤幸夫氏より寄附。



「雪景山水図屏風」(左隻) 佐々木泉景



「はな(木蓮)」
浜出青松



「In New York City Soho」
戸潤幸夫

当館収蔵品貸出情報 (4月1日現在)

◆石川県立歴史博物館(金沢市出羽町3-1)

【2076-262-3236】

展示会名 いしかわの神々―信仰と美の世界―

会期 4月27日(土)～6月2日(日)

出品作品

①「印鑰明神垂迹図」

室町時代(14～15世紀)

七尾市・印鑰神社蔵

②「愛宕権現図」 長谷川信春(等伯)筆

室町時代(16世紀)

当館蔵

※双方とも石川県指定有形文化財



白山・気多・石動など、名高い大神が鎮座する加賀と能登。そこには古来より営々と続く、人びとの「神々と寄り添う」といふつながりがあります。神への信仰は仏教と融合し、互いに影響しあいながら明治時代の神仏分離までずっと育まれてきました。

同展では、これまで人目にふれることがなかった神像彫刻や本地仏、垂迹曼荼羅、神宝、奉納品などを展示。神と仏を崇めてきた信仰の歴史と美の世界を紹介します。



右上:
「印鑰明神垂迹図」
七尾市・印鑰神社蔵

上:「愛宕権現図」
長谷川信春(等伯) 当館蔵

七美から車で30分!

★石川県能登島ガラス美術館

2019年度 展示会情報★

①巡回展「日本のガラス展」

Glass '18 in Japan

会期 4月6日(土)～7月7日(日)

前期:4月6日(土)～5月19日(日)

後期:5月25日(土)～7月7日(日)

日本ガラス工芸協会と公募入選者による新作を展示。

②特別展「田嶋悦子 花咲きぬ」

会期 7月13日(土)～9月29日(日)

陶とガラスが共鳴しあう、田嶋悦子による魅惑の花園。

③企画展「藤田喬平展」(仮題)

会期 10月5日(土)～12月1日(日)

日本の現代ガラス工芸の先駆者・藤田喬平の造形表現。

④巡回展「国際ガラス展」

・金沢2019 in 能登島

会期 12月7日(土)～2020年2月16日(日)

⑤テーマ展「色とりどりの」

会期 2月22日(土)～4月5日(日)

※展示会の詳細は能登島ガラス美術館までお問い合わせください。☎0767-84-1175



飾篇「緑天平」1985年頃 藤田喬平
石川県能登島ガラス美術館蔵



「Flowers 12」2012年 田嶋悦子
作家蔵 撮影:斎城卓



「Harmony」2018年 朝倉祐子



これからの展覧会予定



2019年6月29日(土)～7月28日(日)

◆第1・2展示室 「池田コレクション・シンフォニー」

七尾市出身の実業家・池田文夫氏（1907～87）が蒐集した、当館所蔵品の中核「池田コレクション」。やきものを中心とした幅広い品ぞろえが魅力の美術工芸品コレクションです。

当館では毎年この時期に、同コレクションを陳列する展覧会を開催しています。この度も工芸や絵画・彫刻などのジャンルから多彩な作品を展示、逸品の数々を紹介します。



「色絵捻文八角鉢
(池田コレクション)
吉田屋窯

2019年8月3日(土)～9月16日(月・祝)〈会期中無休〉

◆第1・2・3展示室

大正ロマンとモダンデザイン～大正イマジジュリィの世界～

大正から昭和にかけて、印刷技術の進歩により雑誌や絵はがき、ポスターやチラシなどの広告、本の装幀など、《イマジジュリィ》と呼ばれる新しい大衆的な複製（印刷や版画）が普及しました。「大正ロマン」と呼ばれる乙女チックで抒情性漂うものや、斬新で洗練された「モダンデザイン」などが街中を彩り、著名画家やデザイナーが手掛けたものは特に人気を博しました。

本展では、藤島武二・橋口五葉・杉浦非水・小林かいち・高島華宵・竹久夢二・小村雪岱・橘小夢・古賀春江などによる様々なイマジジュリィの世界を、300点を超える作品で紹介しします。

会期中は、楽しい関連イベントも予定していますので、あわせてお楽しみください。

左：杉浦非水『非水図按集』第1輯 1915年

右上：竹久夢二『歌劇 椿姫』（セノオ楽譜三番）9版表紙
1924年〔セノオ音楽出版社〕

右下：橋口五葉『NIPPON YUSEN KAISHA』（日本郵船欧州航路パンフレット）
1914～15年

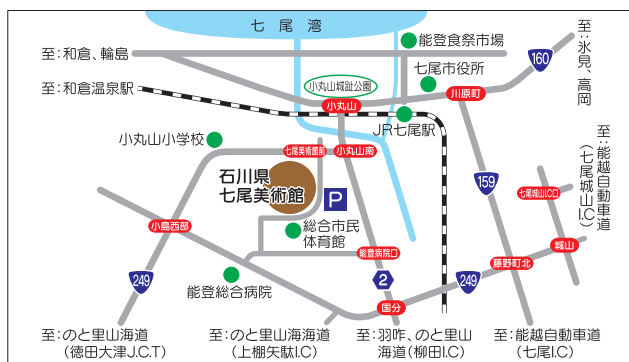


割引、プレゼントなど特典いろいろ！
ぜひ当館でもご利用ください。

無線でネット



エントランスホール及びティールームにて、Wi-Fiスポットサービスの「FREESPOT」をご利用頂けます。



飛行機……のと里山空港から「のと里山海道」利用約45分
車……「のと里山海道」徳田大津J.C.Tから約15分又は「能越自動車道」七尾城山I.C又は七尾I.Cから約10分
タクシー……JR七尾駅から約5分
徒歩……JR七尾駅から約20分
市内循環バス「まりん号」
……JR七尾駅前「ミナ・クル」バス停から「七尾美術館」下車（順回り約8分・逆回り約14分、1日各8便）
なおコミュニティバス「ぐるっと7」
……JR七尾駅前5番乗り場から「小丸山台1丁目」下車（西コース約10分、1日4便）

◎次号・第98号（夏号）は7月1日発行予定です。

2019							◆4月～6月カレンダー◆ ※は休館日 開館時間 ◆ 午前9時～午後5時 （入館は午後4時30分まで）
日	月	火	水	木	金	土	
1	2	3	4	5	6		
7	8	9	10	11	12	13	
14	15	16	17	18	19	20	2019 4 April
21	22	23	24	25	26	27	
28	29	30					
日	月	火	水	木	金	土	2019 5 May
1	2	3	4	5	6	7	
8	9	10	11	12	13	14	
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	2019 6 June
29	30	31					

〒926-0855 石川県七尾市小丸山台一丁目1番地
TEL(0767)53-1500/FAX(0767)53-6262
<http://nanao-art-museum.jp>

石川県七尾美術館だより

第97号（春号）